

追悼

特別会員 三村悟郎先生を偲んで

田仲医院院長 初代同窓会会長
田 仲 秀 明 (1期生)

琉球大学医学部第二内科初代教授の三村悟郎先生（琉球大学名誉教授）が去る平成25年1月23日、享年86歳にて永眠されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

三村先生は、昭和28年熊本医科大学をご卒業後、熊本大学体質医学研究所人体質学研究部（現熊本大学大学院代謝内科学分野）に入局。同部助手、講師、助教授を経て昭和51年、現在の医学部の前身である琉球大学保健学部の第一内科教授に故榎屋富一教授の後任として着任され、昭和55年から57年まで当時那覇市与儀にあった琉球大学附属病院の院長をお務めになりました。その後、昭和56年琉球大学医学部の設立とともに内科学第二講座の初代教授に就任され、平成4年3月までお務めになりました。

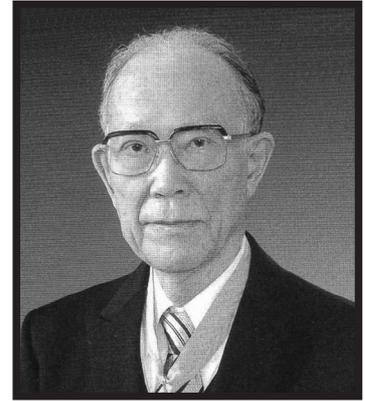
この間、糖尿病・高血圧・高脂血症・肥満といった今でこそメタボリック・シンドロームとしてポピュラーとなった生活習慣病領域の成因について遺伝因子と環境因子の観点から研究を行われました。沖縄とハワイとの疾病比較研究など、地域の特性を踏まえた琉球大学ならではの研究に注力したもので、後に沖縄県の肥満、虚血性心疾患さらには寿命の問題として今日全国で注目されるに至ったのはご存知の通りです。昭和63年から平成3年までは、わが国の人文・社会科学、自然科学全分野の科学者の意見をまとめる日本の代表機関である日本学術会議会員もお務めになりました。

学術的な業績もさることながら、患者の立場に立った様々な活動こそ三村先生の真骨頂であったといっても過言ではありません。現在の糖尿病協会の先駆けである糖尿病患者会を日本で初めて立ち上げたこと。当時医療施設内でしか認められていなかった小児1型糖尿病へのインスリン自己注射の保険適応認可をめぐる献身的な尽力。患者教育にはチーム医療が必要不可欠との認識から糖尿病療養指導士（CDEJ）制度の発足に向けていち早く活動されたこと。

以上のような輝かしい業績により、平成3年に竹田科学賞、平成4年には日本糖尿病学会の最高賞の一つである坂口賞を受賞されました。平成16年には瑞宝中綬章を叙勲され、平成21年には「糖尿病療養指導および糖尿病療養指導士教育と療養指導士制度化推進に対する貢献」に対して鈴木万平賞を受賞されました。

ごく最近でも先生のご講義は、ほんとうに聴くたびに新しい発見があり、これまでは気付かなかったヒントやメッセージを与えていただきました。まだまだご指導いただけるものと信じておりましたが、思い叶わずご永眠されてしまいました。先生のご逝去は、われわれのみならず日本の医学にとりまして大きな損失ではありますが、先生に薫陶を受けました者の使命といたしまして、かつて卒業のはなむけにいただいた「患者はわが師であり、医師には温かい人間味と、直観力と総合性が不可欠」という先生のお言葉を深く噛みしめ、これからも病気で苦しむ患者のために尽力する覚悟です。

三村先生どうぞ安らかにお眠り下さい。



□ 経 歴

- 昭和28年4月1日
熊本大学医学部附属病院において医学実地修練
- 昭和29年5月1日
熊本大学大学院医学研究科臨床学部にて体質の研究に従事
- 昭和32年1月16日
熊本大学体質医学研究所 助手
- 昭和32年3月16日
熊本大学医学部附属病院 助手
- 昭和34年5月1日
熊本大学体質医学研究所 講師
- 昭和36年4月1日
熊本大学体質医学研究所 助教授
- 昭和41年4月1日
熊本大学医学部 助教授併任
- 昭和42年5月1日
熊本大学医学部附属病院成人科（体研） 副部長
- 昭和51年11月16日
琉球大学保健学部附属病院第一内科科長
- 昭和55年4月1日
琉球大学保健学部附属病院院長 併任
（至 昭和56年3月31日）
琉球大学評議員 併任
（至 昭和56年3月31日）
- 昭和63年7月22日
日本学術会議会員
（至 平成3年7月21日）
- 平成4年3月31日
琉球大学医学部第二内科 教授 退官
- 平成4年4月28日
琉球大学名誉教授
- 平成25年1月23日 ご逝去